

# 救われた思い

岡山県 まんぶくじ 万福寺住職 おきな 翁 たい せん 泰仙

---

今朝は救われた思いというお話です。少し前の、法事の席でのことでした。

その日は、私は風邪気味で、喉の痛みと、激しい咳に見舞われていました。

それゆえ不安を感じながら、おつとめに入りました。

しばらくして不安は的中、喉の異変を、感じはじめました。

しかし、おつとめの最中でもあり、「我慢、我慢」と自分自身に言いきかせているうちに、それがむしろ逆効果となり、精神的圧迫から、一挙にせき込む羽目になり、その後何度も失態をえんじてしまいました。

そのときです。お盆にのせたお湯のみが、私の横に差し出されました。見ると制服姿の女子高生が、ほほ笑んでいます。

わたしはおつとめの最中でしたが、好意にあまえ一口、口にしました。

中に入っていたのは、温かいしょうが湯でした。

しょうが湯は、優しく喉を潤してくれ、咳も少しはおさまり、なんとか、おつとめを終えることが出来ました。

おつとめが終わり、すぐに私が女子高生にお礼を言うと女子高生は「和尚さんとても苦しそうだったから、お母さんに相談して、それでお母さんがしょうが湯を入れたんです。」

私はお母さんにもお礼を言いました。

お母さんは、「咳が収まってよかったですね」と言ってくださいました。

さりげないお二人の受け答えは、日頃から、他人に心を寄せる優しい心根から自然にわき出る行為だと思いました。

お二人の優しい自然な計らいに感謝し、私もこうありたいと強く思ったことでした。